○第2回検討委員会 委員からの主な意見について

	分類	意見概要	対応部分
1	施設機能	「アウトリーチについて専門的な支援体制の設置についても検討を進める」の一文について、総合的な用語に修正する。	P5「アウトリーチについての専門的な支援体制のあり方についても検討を進める」に修正する。
2	施設機能	肢体不自由児の4歳児単独通園の開始時期について、どう考えているのか。	今後、検討が必要な事項に記載する。 (肢体不自由児の4歳児単独通園の開始時期については、他の療育センターでの導入を含めて、今後、検討する。)
3	主な関係機関との連携及びエリア分担	療育センターが、発達教育センターに対して、就学相談に際して、より良い進路選択となるよう支援、情報提供を行うとしているが、情報提供などのサポート的な役割が本来の役割ではないか。	P10「④発達教育センターに対しては、就学相談に際して、必要な情報提供を行う。」に修正する。 ※保護者への支援は、P8の「5家族支援」に含まれているものとする。
4	主な関係機関との連携及びエリア分担	②保育所・幼稚園等に対して訪問助言や研修の実施により支援を行うとあるが、実際に施設に行き様々な支援をするように見えるため、「要請に応じて」支援するとはどうか。	P10「②保育所・幼稚園や放課後等デイサービス、児童発達支援センターなど他の障がい児支援施設に対しては、各施設や本人の状況に応じて、訪問助言（アウトリーチ）や研修の実施により支援を行う。」に修正する。
5	主な関係機関との連携及びエリア分担	実際は要請のあるなしに関わらず、勉強会の案内をしており、基本的には分け隔てなく支援すべきと考える。	
6	主な関係機関との連携及びエリア分担	⑤特別支援学校等に対して専門職支援などの移行連携を行うとしているが、具体的にどのような支援を行うのか。	P10「⑤特別支援学校や特別支援学級などに対しては、療育センターの就学前療育と小学校における連続性、継続性が必要であり、研修などによる円滑な移行連携を行う。」と修正する。
7	施設機能	アウトリーチ、地域支援について、療育センターと児童発達支援センターの役割を明確にする。	P10「高度な専門的支援機能を持つ本センターが、地域支援の中核的役割を担う児童発達支援センターと協働し」に修正する。
8	施設建築計画	保育園等利用者の増加に伴い通園人数が減少している状況で、外来グループ療育室を1室増設するだけで足りるか危惧している。 また、今後の見通しが立てにくいため、療育指導室と外来グループ療育室を転用できるような工夫が必要。 また、ゲートを設ける必要があるが、セキュリティと利便性に配慮する必要がある。	P18,19「将来のニーズに合わせた柔軟な対応が出来るよう、外来グループ療育室等としても利用できるようにする。」と追記する。 ゲートについては可動式を含め、基本設計にて検討する。
9	施設建築計画	運動療法室について、ハイハイする場所と車いすを利用する場所を分けて使えるようにする。	P19「衛生面等に配慮し、上足ゾーン（這い這いなど）と下足ゾーン（車いす利用など）を分ける。」と追記する。
10	施設建築計画	敷地の出入口について、避難に配慮する。	敷地のメインの出入口は、南の新設道路からとなり、避難に十分なものとし、敷地境界線に設置する塀には公民館や小学校へ緊急時に避難できるよう基本設計にて検討する。
11	施設機能	あゆみ学園（南区屋形原）の機能を南部療育センター（博多区三筑）へ移行することから、通園エリアを考える必要がある。	今後検討が必要な事項に記載する。 (南部療育センターの通園エリアについては、利用調整委員会において、バスコースを基本としたおおまかな地域割りなどに基き受け入れ児を決めているため、利用調整委員会と連携しながら通園エリアを検討していく。)
12	施設機能	資料1に今後検討する課題があるが、基本計画に記載するべき。	今後検討が必要な事項に記載する。
13	施設建築計画	屋根付の駐車場とする場合、肢体不自由児の保護者は大きい車を利用しているため、柱にぶつけないような配慮が必要。	柱に衝突しないように柱間の距離を確保するなど、基本設計にて検討する。